

C 小学校の取組

<p>【学校の特徴】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童35名の小規模校であり、学級数は、特別支援学級を含め、7学級である。 ・職員の年齢構成のバランスがよく、授業研究会等では、忌憚のない意見が出され、活発な協議が行われている。 
<p>【児童の実態】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の授業が将来役に立つ学習であると捉えている児童が多い反面、国語が苦手な児童がいる。 ・児童数が少ないため、多様な意見が出づらい。 ・発言が消極的で、発表者が限定される。 ・将来の夢や目標をもち、人の役に立ちたいという児童が非常に多い。 ・基本的な生活習慣等は身に付いているが、家庭での学習時間はやや少ない。
<p>【目指す児童の姿】</p>	<p style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">主体的に学び、自ら進んで表現しようとする児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで意欲的に学習に取り組むことができる。 ・自分の意見をもち、伝えることができる。 ・互いの意見のよい点を認め合いながら伝え合うことができる。 
<p>【学力向上に向けた取組】</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px; border: 1px solid black;">(1)「C小授業スタイル」の共通実践</div> <div style="background-color: #FFB6C1; padding: 5px; border: 1px solid black;">(2)学びを深める工夫</div> <div style="background-color: #90EE90; padding: 5px; border: 1px solid black;">(3)家庭学習の習慣化</div> </div>

主体的に学び、自ら進んで表現しようとする児童の育成

<p>(1) 「C小授業スタイル」の共通実践 ★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「展開ボード」の活用 ・「話し方名人」「聞き方名人」の活用 ・学習の流れ・内容が一目で分かる「構造的な板書」での整理・表示 ・「振り返り活動」の充実 	<p>(2) 学びを深める工夫 ★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習過程に応じた工夫 ・必要感のある言語活動の設定 	<p>(3) 家庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の内容を音読・漢字・計算と自主学習に統一 ・生活習慣チェックリストによりメディアコントロールを実施 (学期1回)
--	--	---

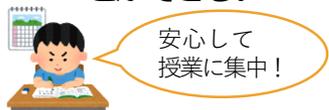
<p>【成果と課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す児童像を共有し、皆で協力しながら研究に取り組んできたことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図れている。(教師の変容) ○自分の意見をもち、対話的な活動を意識した授業を展開したことにより、交流活動に積極的に取り組む児童の姿がみられるようになった。(児童の変容) ●目指す児童の姿の実現に向け、継続して研究に邁進し、授業の工夫・改善に努めていく必要がある。
-----------------------	---

(1) 一貫性をもたせる学習活動(「C小授業スタイル」の共通実践)★

児童の発表意欲が高まる

①「展開ボード」の活用

- ・本時の学習の流れを提示し、児童が今はどの学習場面なのかを自分で確認できる。
- ・1時間の学習内容を見通して安心して取り組めたり、今の学習活動が次の学習活動にどのようにつながっていくのかを確認したりすることができる。



見通しをもって
安心して取り組める

②「話し方名人」「聞き方名人」の活用

- ・児童一人一人の発言を認め合える雰囲気づくりを重視し、児童にとって分かりやすく、取り組みやすい「話し方名人」「聞き方名人」を掲示している。常時活用し、児童への働きかけをしている。

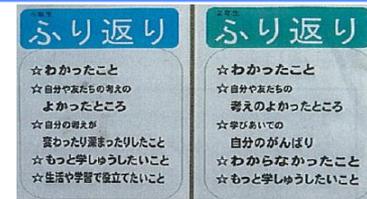


③学習の流れ・内容が一目で分かる「構造的な板書」での整理・表示

- ・(2) 学びを深める工夫 ◇「伝え合う場面」を参照

④「振り返りの活動」の充実

- ・まとめる活動の後に、振り返り活動を連動させることで、本時の学習活動の意義、意識を更に高めることができる。何をどう振り返りさせるとよいかを明確にするため、振り返りの視点を掲示している。



(高学年) (低学年)

児童の学習に対する集中力や意欲が高まり、学習の理解度も高くなった。

(2) 学びを深める工夫 ★

①学習過程に応じた工夫

◇「考えをもつ場面」

- ・ヒントカードを活用する。話型等
- ・ペアでの意見交流の場を設定する。
- ・考えの理由や根拠をもたせる。
- ・前時までのポイントを整理した掲示物を活用する。



※前時までの学習内容の掲示

◇「認め合う場面」

- ・相手の考えを受け止める。
- ・間違ってもよいという雰囲気づくりに努める。
- ・話し手のよいところを必ず見付けて伝える。

◇「伝え合う場面」

- ・話し合いの流れを板書で比較・確認できるように整理して活用する。



②必要感のある言語活動の設定

◇児童の視点から見直す

- ・児童が積極的に取り組める(楽しい・面白い等)活動
- ・学んだことをその後の日常生活に生かせる活動
- ・学習の見通しやゴールが分かりやすい活動

◇教師の視点から見直す

- ・児童の実態(発達段階・学力等)に応じた活動
- ・学習の連続性(応用・発展等)が生かされた活動

◇「はばたく群馬の指導プランⅡ」の視点から見直す

- ・相手意識や目的意識の明確化

(例) 第3学年 国語『すがたをかえる大豆』

『すがたをかえる大豆』を読んで説明の仕方の工夫を理解し、それらを活用して児童が説明する文章を書く。

→相手意識や目的意識をもたせる活動



必要性をより感じる言語活動を設定することで、自ら進んで表現するとともに、主体性を高めたり、学びを深めたりすることにつながった。